

C 11/9(日)9:50-12:50 (受付開始 9:00)

大腸疾患の診断と治療の進歩

講座情報

消化管は、口腔、食道、胃、十二指腸、空腸、回腸、大腸からなり、主に消化・吸収・排泄を行う重要な臓器の1つである。消化管疾患は腫瘍、炎症、機能的運動障害など様々な疾患を対象としており、外来・入院患者数が最も多い領域の1つである。他の疾患と同様に消化管疾患における診断学・基礎研究・臨床研究などの進歩は日進月歩であり、常に新しい知識を学ぶことが必要となる。本講演では胃潰瘍、過敏性腸症候群や便秘など日常業務で診ることが多い疾患や、感染性腸炎や薬剤性腸炎などの疫学、原因や治療法、大腸癌などの悪性腫瘍の基本的な診断法や最新の治療法、さらには潰瘍性大腸炎、クローン病のように希少疾患ではあるものの近年増加している疾患の新しい治療法などについて概説したいと考えている。

講演者情報

長沼 誠

慶應義塾大学医学部内視鏡センター専任講師